

鯖
随
士
ち
ち

春画のハザン

R-18
FOR
ADULT



「なんだ、もうへばったのか？
この程度ではいつまで経っても
真に強き勇士にはなれんぞ」

「む、なるほど…師の体を見て
興奮してしまったのか。
悪い弟子だな♡」

ギン

ギ



「仕方がない、静めてやらねば
稽古ができんからな」

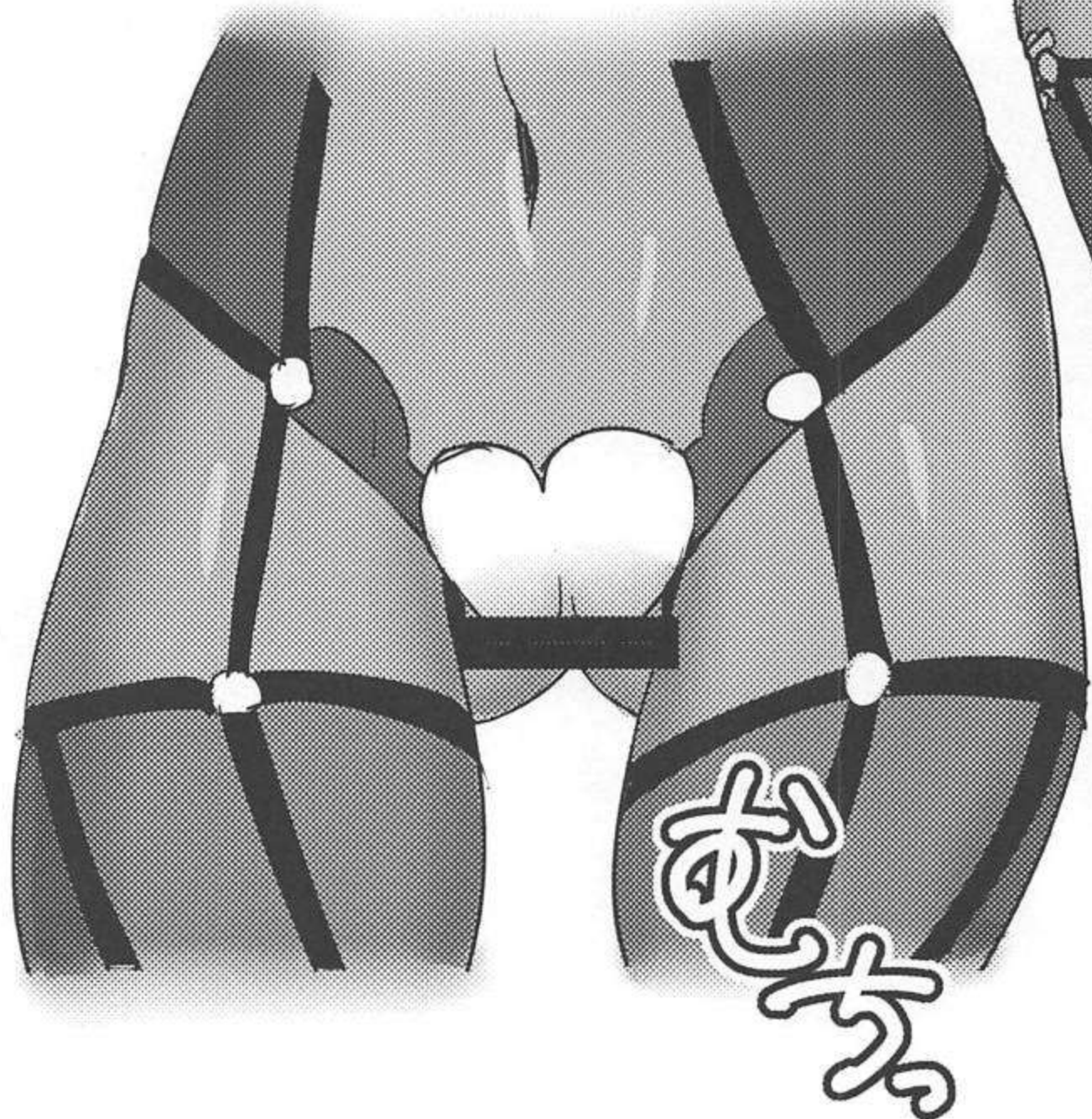
たざん

たざん



「これでどうだ♥」

むちゅ



むちゅ

むしゅん



むしゅん

「乳が好きか？許す。
好きに触ってよいのだぞ」

「ラフツ乳飲み子のように
むしゅんおっつて♡
可愛い弟子だ」

むしゅん



しゅん

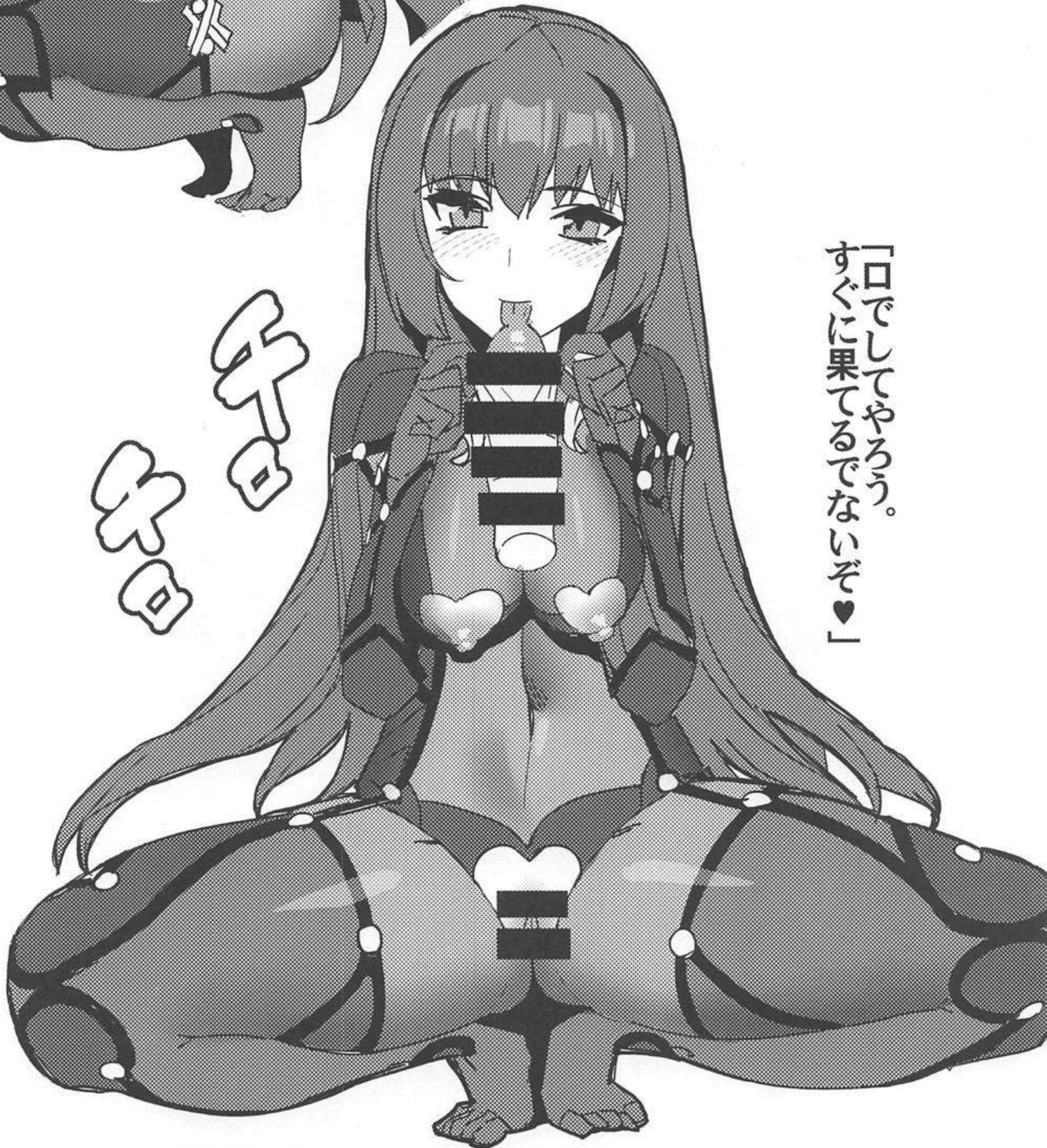
△

△



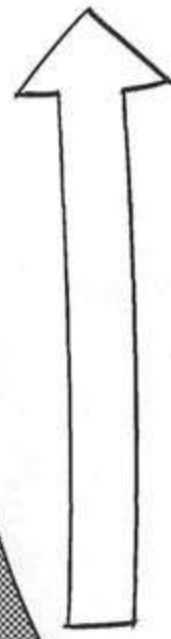
「息子もなかなか
かわいいではないか♡」

千口千口



「口でしてやろう。
すぐに果てるでないぞ♡」

じゅる



じゅる



「んっ♡ちと早い
元気がいいな」

どぴゅん



「じゅる♡ずじゅる♡
ん♡この分だとまだまだ出し足りないか。」

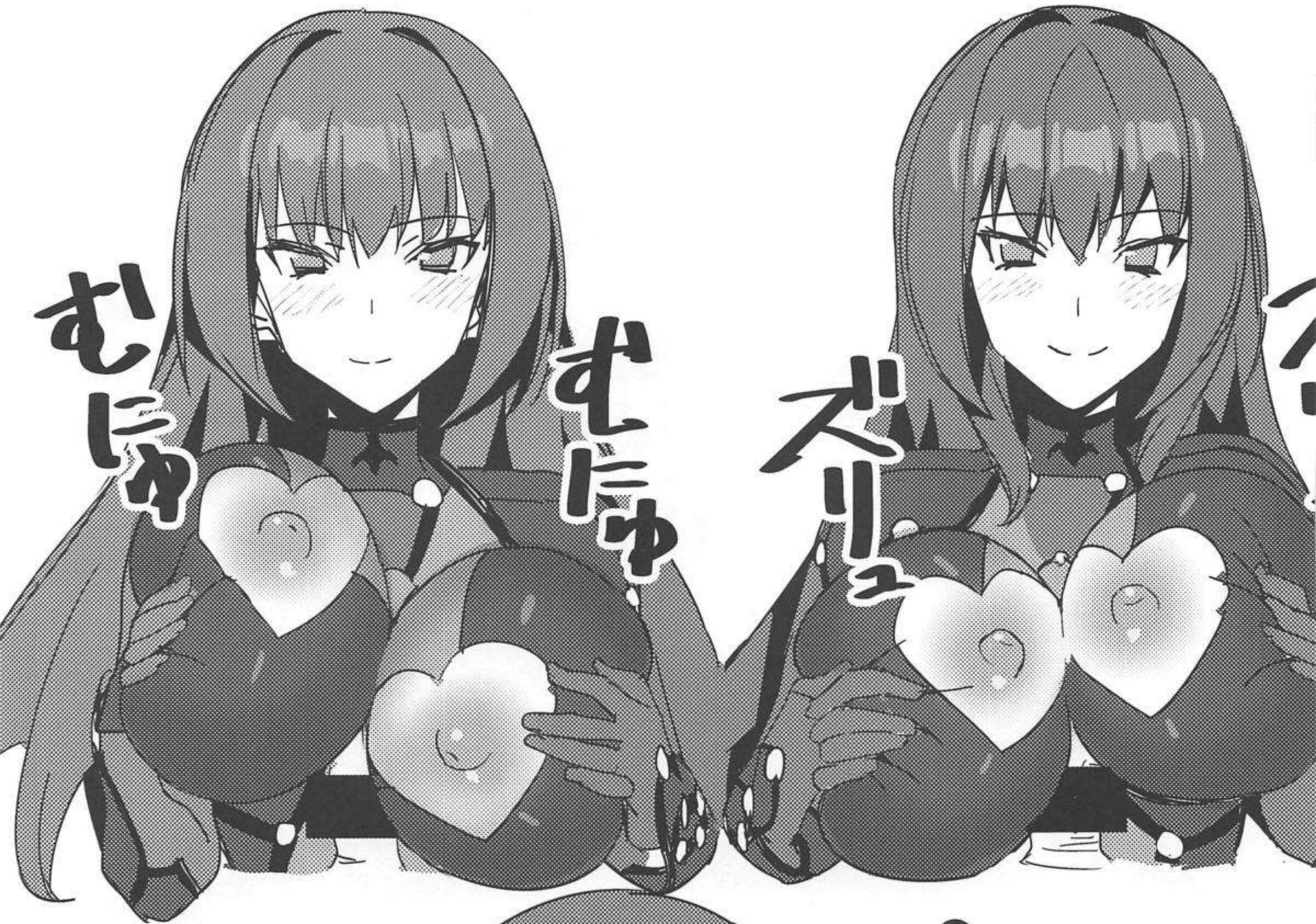
「ほおら
大好きなおっぱいで
ペニスが見つちり
包まれてしまったぞ♥」

む
に
ゅ
う

す
ん

「ふいまで我慢できてるっ。」





「んっ♡ずじゅるる♡じゅるる♡」



「またすぐに出してしまいおっとなさけのない…んっ♡ごくっ♡…だが味はなかなかだな♡」

「いよいよ正念場だぞ勇士。」

「力^なを示せ、このスカサハの腔内^かに♡」





ぬちゅ

ハッ

ハッ

すりゅ

すりゅ

ぽん

ぽん



どどど

「よしよし良い勢いと
粘っこい子種だ♡
師の腔^な内^かで
じつくり搾り出せ♡」

んやんやん

カ
バ
ツ

「あっ何っ!？」

もみっ

もみっ

「なんだ、触らせるのが胸だけだと不服か…
尻は苦手…いや、なんでも無い。
す、好きに触れてかまわんぞ♥」

「あッ…ひんッ…よせ、これ以上は…」



「くっ…ねちっこく揉みしだきおって…んッ」





もは

くぼあ

ん

ん

「よせと言ってるだろウツ！
あつそこはつ！
んああツ…広げるなあツ！」

ツ

ツ

「ま、待て！あツ
あひいいんツ
ほおツ！ほおツ！」

い

むにやう

「あッひんッあひいッ
もうやめてくれッ
これ以上尻をかき回されたら…!!」

い



どぞん

どぞん

どぞん

あ

完全に弱点を知られてしまった……
それからは常に主導権を
握られるようになった

どぞん





「あッひッひんッ♡
ほッおほッ♡
マスター、もつと…
もつと激しく頼む…んッ♡」

「じゅる…ずちゅる…
もつと、もつときてくれマスター
ずつと繋がっていたいッ♡」



それから私の英霊などではなく
このマスターの女に成り下がってしまった

だが不思議と悪い気はしない
今日もまた尻穴を弄ばれるだろう♡



段蔵ちゃんの話

「戦闘終了です
マスター！」



じゅん

「ウウツ段蔵ちゃんの
からくり口淫でイクッあッ」

「マスター、お粗末さまでした……！
喜んでいただけましたでしょうか」

「いつもありがとう、段蔵ちゃん」

「いえ、戦闘を除いて
段蔵がマスターのお役にたてるのは
こういうったことくらいですから……」

「いいや、段蔵ちゃんはスーパードライナからくり忍者なんだ
まだ見ぬ機能が隠れているに違いない！身体検査だ！」

「うう、ちよらマスター
なんだか恥ずかしいです」

もももも
ピカピカ
さわさわ
さわさわ
さわさわ

「あっ」



「アツンツ段蔵にツまだこんな機能が
あつたなんて驚きですンアツ!!!」

「当然だよ段蔵ちゃんは
お母さんでもあつたんだからね
ハアハア……」





いかり

このあとも
めちやめちや
セツクスした

ちや

いかり

★奥付

発行日：8月12日

発行：春画のハサン

絵とセリフ：春画のハサン

Email: assassinr18ex@gmail.com

twitter: assassinr18ex

印刷：株式会社猫のしっぽ様

